授与機関名　順天堂大学

学位記番号　乙第 2437 号

The use of short versions of the Japanese WAIS-III to aid in differentiation between Alzheimer’s disease and dementia with Lewy bodies

（アルツハイマー病とレビー小体型認知症の鑑別のための日本版 WAIS-III 簡易実施法の有用性の検討）

太田　一実（おおた　かずみ）

博士（医学）

論文審査結果の要旨

本論文は、ウエクスラー成人知能検査第３版（WAIS-III）を用いてアルツハイマー病（AD）およびレビー小体型認知症（DLB）の認知機能の特徴を明らかにし、さらにこれらの臨床群に対する WAIS-III の簡易実施法の有用性を初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。本研究の結果から、DLB は AD に比べて動作性 IQ（PIQ）と処理速度が有意に不良であること、そして「知識」「類似」「算数」「数唱」「絵画完成」「符号」「積木模様」から成る簡易実施法は IQ と群指数の誤差が少なく、かつ AD や DLB の認知機能の特徴も反映することが明らかとなった。

AD と DLB の鑑別のための神経心理検査はこれまでに多く開発され、その有用性が証明されてきた。しかし今回の研究から、日本で最も頻繁に使用される成人用知能検査のひとつである WAIS-III を使用することで、追加の検査を要することなく AD と DLB の早期鑑別のための認知機能の特徴を捉えることが可能であることが示された。WAIS-III のような詳細な検査は認知症や軽度認知障害（MCI）の早期発見のために重要であるが、特に高齢者に実施する際には体力的・精神的な負担がかかりやすく、すべての下位検査を実施することが困難な場合も少なくない。そのため、WAIS-III の簡易実施法が認知症高齢者にも有用であることが示されたことは、高齢者の多い臨床現場では特に有意義である。日本でも 2018 年に改訂版である WAIS-IV が販売されたが、WAIS-III の群指数は引き続き使用されるため、本研究の結果は WAIS-IV にも十分に適用可能である。よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。